

寄附講座事業成果報告書

部局名：徳島大学病院

寄附講座等の名称：地域産婦人科診療部（設置期間：平成 26 年 4 月 1 日～令和 7 年 6 月 30 日）

寄附者：徳島県

寄附講座診療部長：木内 理世 特任准教授

1 寄附講座等の概要

徳島県南部の産婦人科診療施設は徳島県立海部病院が最南端で、次の施設までは車で一時間以上かかる。人口の半数は女性であり、検診を含め産婦人科受診を要する。そのため、海部病院の産婦人科は地域にとって重要な役割を果たしており、より良い診療を提供できるよう、徳島県により徳島大学病院に寄附講座が設置され、医師の派遣や若手医師の育成等により、県南部の住民の方々への医療提供に貢献してきた。

特に分娩においては、居住地近傍で行えることは妊婦さん本人及び家族にとって有益なことである。分娩を行うには、24 時間 365 日体制であることが必須であり、寄附講座は体制維持に不可欠であった。

しかし、人口減少、産婦人科医不足などにより分娩対応は困難となっていき、この度、令和 7 年 6 月をもって、寄附講座を終了する運びとなった。しかし、今後も徳島大学病院から派遣する医師が外来診療を行うことにより、引き続き、県南部に産婦人科医療の提供を行っていく。

2 教育・研究・診療等の成果・効果

平成 26 年 4 月から令和 7 年 6 月までの寄附講座設置期間中に、海部病院で 16 件の分娩があった。16 名の妊婦さんは自宅近くでご家族に囲まれて快適に、そして安全に出産することができた。また、この間に海部病院で妊婦健診を受けた妊婦は延べ 332 名であった。分娩は他院で行った方もいるが、通常の妊婦健診を自宅近くで受診できたことは有益であったと思われる。さらに、13 名の妊婦については、他院にヘリコプター搬送も含めた救急搬送を行った。24 時間体制を維持したことで、必要時には近隣病院や周産期センターと適切な連携を行うことができ、周産期の安全性を担保することができた。

産婦人科外来受診者数は寄附講座設置期間中、月に約 100～130 名であり、徳島県南部の産婦人科地域医療に貢献できた。また、徳島大学病院をはじめとしたがん拠点病院で治療中の患者の定期検診を含めた診療も行い、体調のすぐれない患者の遠方への移動負担を軽減することにも貢献できた。

さらに、寄附講座所属医師が徳島県内で住民に向けて不妊症やヒトパピローマウイルスワクチンなどの講演を複数回施行し、住民の健康維持のために重要な役割を果たすとともに、医学生や研修医に対し地域産婦人科医療に関する教育も行い、今後の地域医療の維持、発展につなげる活動を行うことができた。

3 達成度（自己評価）

寄附講座設置期間中の 16 件の分娩を安全に行い、地域住民の満足を得られたことは特筆すべきことである。また、地域住民にとって身近な存在である海部病院は、産婦人科領域の症状が生じた際に気軽に受診いただける病院となっており、地域医療への貢献を実感することができた。

4 その他

この度、寄附講座を終了することとなったが、外来診療を継続し、できる限り徳島県南部の産婦人科地域医療に貢献させていただく次第である。